

1. 科目名 (単位数)	教育課程特論 (2単位)	池袋・名古屋	3. 科目番号	EDMP5234 EDMP5319
2. 授業担当教員	【池袋】大島 聡 【名古屋】金 龍哲			
4. 授業形態	講義		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし			
7. 講義概要	<p>学校は、子どもに何を教え、何を学ばせるのか。この「何を」の教育内容を、子どもの必要と社会の必要とに基づいて検討し、構造化し、評価するのが学校カリキュラム研究の基本的課題である。子ども達が心身ともに健全に豊かに発達することを保障するカリキュラム編成の問題は、学校の教職員が各学問分野の研究者、教育行政の担当者、地域の父母・住民等の協力を得ながら、様々な角度から研究し、実践する必要がある。こうした視点に立って、本講では、学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読し、さらにこれらと関連したカリキュラムの実践事例の資料等も検討しながら、カリキュラムについて実証的に研究する。学習指導要領(平成29年告示)で、「生きる力」「思考力」を育むという理念が、これからの日本の教育のあり方を決める鍵になるとの考え方が示されたことに注目する。その上で、現在どのようなカリキュラムが学校現場で実践されているのか、その現状を具体的に把握し今日的課題を明らかにする。平成29・30年の改訂による社会に開かれたカリキュラムをいかに実践するかを具体的に探究する。</p>			
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校カリキュラム研究の理論と方法を扱った基本文献を講読する。 2. 文献資料の要点を読解し、最近の改革動向をも含め学校カリキュラム研究の基本的知見を整理する。 3. 学校カリキュラムについて研究する方法の基礎を理解する。 4. 自らの研究分野と関わるカリキュラム研究の方法について理解する。 5. 国際的な視野からカリキュラムの概念とその系譜を理解する。 			
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ①わが国の学校カリキュラムを支える思想がどのように変遷しどのように展開されたか、その今日的意義と課題は何かについて述べよ。 ②カリキュラム編成の規定要因とそれらが教師の教育活動に与える影響について述べよ。 ③総合的な学習の時間の意義と課題について述べよ。 			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 日本カリキュラム学会編「現代カリキュラム研究の動向と展望」教育出版</p> <p>【参考文献】 安彦忠彦編『新版カリキュラム研究入門』勁草書房 秋山仁・浅沼茂編『思考力を育てる教育方法』黎明書房</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準 各種カリキュラム開発理論を各自の研究課題として理解することが出来る。 カリキュラム開発の目的・内容方法・評価について、学習者の発達段階の応じた系統性・順次性を理解する。</p> <p>○評定の方法 教育目的・目標、方法、結果の評価に関する時代変遷を認識し、現在に至っているかを対話の中からその変容を把握できる。 各自の研究目的方法内容をカリキュラム開発研究と関連しているかを考え、展開することが出来る。</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>新しい学習指導要領の掲げる理念である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力など」「人間性」を子どもの身につけさせることのできる高い専門性と力量を持った教師・研究者になるためには、教育課程について歴史、理論、実践などの観点から多角的に研究することが不可欠である。院生一人ひとりの学習に沿いながら教師はそのコーディネーターの役割をつとめるので準備と積極性が望まれる。</p>			
13. オフィスアワー	授業中に提示する。			
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】				
1～6. テーマ	カリキュラムの概念と理論			
	<p>【学習の目標】カリキュラムの概念とその理論について研究を深める。</p> <p>【学習の内容】教科書第I部の各章から適宜トピックを取り上げ検討する。</p> <p>【キーワード】カリキュラムの概念、カリキュラム開発、カリキュラム開発の方法、カリキュラムの効果</p> <p>【学習の課題】カリキュラムの基本的な考え方や基礎理論について文献を講読し研究を深める。わが国の学習指導要領の変遷と、それに伴って教育課程がどのように改革されたか、総合的な学習の時間がどのように構想され展開されたか、さらにはカリキュラム開発の方法について研究し、その今日的課題について考察する。</p>			
7～10. テーマ	諸外国のカリキュラム実践とその示唆			
	<p>【学習の目標】諸外国のカリキュラム実践を概観し、それぞれから得られる示唆を考える。</p> <p>【学習の内容】教科書第14章より諸外国のカリキュラムの特徴を理解する。</p> <p>【キーワード】コンピテンシー、PISA、Ed.D</p> <p>【学習の課題】カリキュラムには様々な考え方があり、国際的観点から、共通するところ、相違するところを考察する。</p>			
11～14. テーマ	カリキュラム研究の方法論			
	<p>【学習の目標】カリキュラムを研究する際のアプローチの違いと、それにより見えてくるものの違いを理解する。</p> <p>【学習の内容】教科書第III部の各章から適宜トピックを取り上げ検討する。</p> <p>【キーワード】哲学、歴史学、教育方法学、社会学、心理学、経営学、行政学</p> <p>【学習の課題】自分の研究課題と関連させて、カリキュラム研究の方法を考えることができる。</p>			